

7. 「2004 年韓日病院経営シンポジウム」参加の報告

拠点リーダー 二 木 立



4月24日に、延世大学病院管理研究所が主催する「2004年韓日病院経営シンポジウム—高齢化時代の病院経営」が、ソウル市の延世大学校医科大学講堂で開催されました。このシンポジウムの実質的な企画・実施責任者は、本年2月28～29日の本学COEシンポジウムとワークショップに参加された延世大学校保健科学大学保健行政学科の丁（Jeong）教授で、同氏の依頼で私と野村秀和教授が参加し研究発表しました。

Jeong 教授は、ソウル大学卒業後、韓国の保健福祉部（日本の厚生労働省に相当）に18年間勤務し、2年前から延世大学校に移られた方で、現在も韓国の医療政策立案に深くかかわっておられます。保健福祉部在職中の1991～1993年に東京大学に留学されており、日本の医療政策にも精通されています。

シンポジウムは3部構成でした。第1部高齢化時代の病院経営の方向では、保健福祉部の社会保障政策室老人療養保障課長の張（Jang）氏が「高齢化時代の医療福祉政策」について、私が「21世紀初頭の日本の医療提供制度改革と『保健・医療・福祉複合体』」について報告後、討論者のコメントと質疑応答が行われました。第2部経営戦略では、徐延世大学校保健科学大学教授が「長期療養産業の運営戦略」について、野村教授が「当面する（日本の）医療経営の課題」について報告しました。第3部事例発表では、老人専門病院と老人医療複合体の事例が発表されました。後者で、社会福祉法人の医療・福祉施設を幅広く経営する金氏は、なんと私の写真付きで私の「複合体」の定義を紹介され、今後の病院経営は「複合体（ポッカチェ）以外にない」と強調されました。なお、シンポジウム参加者は院生を含めて、約200人とのことです。

このシンポジウムに参加して、印象に残ったことは3つあります。第1に、「病院経営シンポジウム」であるにもかかわらず、事実上の主題は韓国で2007年に創設予定の介護保険制度とそれへの対応であり、そのために日本の介護保険制度への関心が非常に強いことです。第1部で、張氏は日本の介護保険制度や要介護認定を参考に行っていると明言していました。同氏は日本社会事業大学に留学して社会福祉学博士号を取得されており（指導教授は京極氏）、日本の事情にも精通されていました。同氏によると、保健福祉部の福祉担当者は、継続的に日本社会事業大学に留学しているそうです。私と野村教授はともに、韓国の医師向け雑誌（The Korean Doctors' Weekly）のインタビューを受けたの

ですが、質問は介護保険制度に集中していました。なお、Jeong 教授から韓国の国民健康保険公団で介護保険の研究のために日本に留学予定の若手研究者（金氏）を紹介されました。教授は彼に本学大学院への留学を推薦されているようで、私も本学の COE 研究プロジェクトの第 1 分野では介護保険の最先端の実証的研究が行われていると紹介し、本学への留学を強く奨めました。

第 2 は、韓国でも「複合体」が介護保険制度への病院の対応戦略として注目されつつあり、それだけにこの点で先行している日本への関心が強いことです。第 3 部で「老人医療複合体の運営事例」について発表された金氏は、何度も日本の「複合体」を見学して、自グループの参考に行っているそうです。Jeong 教授からは、私の最新著（『医療改革と病院』）を韓国語に翻訳したいとの希望も出され、今後その方向で準備することになりました。

第 3 は、シンポジウムの運営が非常にしっかりしていたことです。一番驚いたことは、準備期間が短かったにもかかわらず、私と野村先生の日本語レジュメ（原稿）の全文翻訳を含んだ立派な要旨集（81 頁）が用意されていたことです。また、韓国側の報告者全員がパワーポイントを用い、司会の時間管理も概ね良好でした。

シンポジウムの前に、李教授・野村教授・私とで、本年 9 月から「保健・医療・福祉複合体の日韓比較研究」を開始すること、そのための研究助成をファイザーヘルスリサーチ振興財団に申請することを確認しました。これにより、今まで大幅に遅れていた、第 5 分野保健医療福祉の統合システムの国際比較研究を始める目途がようやく立ちました。